

生涯学習社会における学校の役割と学校建築の持続的再生に関する国際比較研究? - オーストラリアNSW州の小学校の教科の内容と構造に注目して -

著者	山田 真紀
雑誌名	人間関係学研究
号	3
ページ	79-96
発行年	2004
URL	http://id.nii.ac.jp/1454/00003233/

生涯学習社会における学校の役割と学校建築の 持続的再生に関する国際比較研究Ⅲ

—— オーストラリア NSW 州の小学校の教科の内容と構造に注目して ——

山 田 真 紀

International Comparative Study on the Role of Schools in Lifelong
Learning and an Examination of the Sustainable Renovation of School Facilities Ⅲ
— Structure of Curriculum in Primary schools in the State of NSW, Australia —

Maki YAMADA

1. 本論文の目的と方法

本論文は、2003年度に村上心（椋山女学園大学生生活科学部助教授）を研究代表者として結成された、「生涯学習社会における学校の役割と学校建築の持続的再生に関する国際比較研究会」が実施した調査研究のうち、オーストラリア調査で得た成果の一部を報告するものである¹⁾。本論文では、①調査を実施した3つの学校で、国家カリキュラムに定められた7つの領域をいかに実施しているのか、②教師の自律性を重んじ、コアカリキュラムを中心として進行する授業において、いかに国家カリキュラムを網羅し、スタンダードを維持するのか、の2点をテーマとして、収集したデータを分析していく。

なお、われわれが研究の対象としたのは、オーストラリア連邦のニューサウスウェールズ州（New South Wales：以下、NSW州と表記）にある3つの公立小学校、すなわち、都市部にあるアルティモ小学校 Ultimo Public School、郊外のニュータウンにある大規模校であるカールトン小学校 Carlton Public School、郊外の既存住宅地にある小規模校であるミドバンク小学校 Meadowbank Public School である。NSW州の教育制度の概略、および、調査した各学校の学校規模、歴史、教職員の種類、学区の特性については、『椋山女学園大学研究論集（自然科学編）』第36号にて詳述しているので、そちらもあわせてご覧いただきたい²⁾。

本論文を執筆するうえで参照したのは、校長先生へのインタビューで収集したデータ、学校から提供を受けた学校紹介パンフレット、学校計画（School Plan）、保護者ハンドブック、学校が発行するニュースレター、時間割などの文書資料、および各学校が開設しているホームページである。校長先生へのインタビューから得られたデータは、記憶違いがある危険があるので、極力、文書資料による裏づけを取るように努めた。

2. 教科の構造と時間割

オーストラリアでは、学校が提供する教育にスタンダードを設けるために、1991年に国家カリキュラムを導入した。NSW州では、学習委員会がすべての教科に対して、学習指導要領を

図表1 NSW州の小学校の教科一覧

教 科	教科を構成する内容	目 標
英語 English	話す・聞く／読む／書く	正しく英語を使えるようにする。言語がどのような働きをするのかを批判的に考察する能力を身に付ける。
数学 Mathematics	数学的に考える／図形／測定／数	数学的な知識や技術を身に付けるだけでなく、数学が人間のニーズを満たすためにさまざまな文化のなかで発達してきたことを理解し、さらに日常的問題解決の場面で、数学的知識や技術を利用できるようにする。
人文社会と環境 HSIE (Human Society and Its Environment)	変化と持続／文化／環境／社会システムと構造	情報を収集する。調査する。社会的市民的な参加を可能にする。(そのために、社会的正義、文化間の理解、環境保護、民主的な手続き、信念や道徳心、生涯学習の意義について理解させる。)
科学とテクノロジー Science and Technology	《内容的分類》 生活環境／情報とコミュニケーション／生き物／物理的現象／製品とサービス／地球環境 《方法的分類》 調査／デザインと製作／テクノロジーの利用	自然現象や環境について調べたり、特定のニーズに合わせてモノやシステムを作ったり、さまざまなテクノロジーを選択・利用する能力を身につける。
心身の発育と保健体育 PDHPE (Personal Development, Health and Physical Education)	《能力的分類》 コミュニケーション能力・意思決定能力／人間関係能力／体を動かす能力／問題解決能力 《内容的分類》 活動的なライフスタイル／ダンス／ゲームとスポーツ／成長と発達／体操／人間関係／個人的な健康の選択／安全な生活	自分と他者の価値を認め、理解する。体育的活動を行う。効果的で責任ある行動を行うことのできる意思決定能力を持つ。肉体的、社会的、認知的、感情的成長と発達を促す。ポジティブな人間関係を形成・維持する。個人の健康的な選択を可能にする。安全に守られた環境で生活・学習できるようにする。活動的なライフスタイルを選択する能力を身に付ける。体の基本的な動きと体の調和した動きを習得する。
創造芸術 Creative Arts	美術／音楽／ドラマ／ダンス	それぞれの活動に対する知識や技術を高めるだけでなく、これらの芸術のもつ意味や価値(芸術は個人的・文化的なコミュニケーションの一形態である)ことを理解させる。
外国語 Language other than English	中国語／ギリシア語／インドネシア語／イタリア語／日本語／韓国語	外国語の知識と技術を身に付けるだけでなく、他者とコミュニケーションしたり、文化を伝達したりするうえでの言語の役割について理解する。文化間理解や文化的遺産を尊重する態度を育てる。

(注) NSW州学習委員会 (Board of Studies NSW) の発行する学習指導要領 (Syllabus) を参照して作成。

定めるだけでなく、学習指導要領をサポートする教材を開発している³⁾。学習指導要領には、理論・目標・成果・主題・評価についてのアドバイスが書かれている。小学校では6つの主要学習分野を勉強する。英語、数学、科学とテクノロジー、人文社会と環境、創造芸術、心身の発育と保健体育、の6科目である。各教科の内容と目標は図表1に示した通りである。「心身の発育と保健体育」では、この教科の一環として、児童保護教育、薬物乱用防止教育、交通安全教育が行われている。児童保護教育とは、児童が危険な、あるいは不自然な状況に直面した際、その状況を正確に判断し、信頼できる大人に助けを求められるようにすることを目的とする。1999年以降、すべての公立小学校で必修となっている。性的な体の部位が描写されることもあるため、保護者から、文書で参加承諾を得る。保護者にも理解を促すために、授業を参観することを勧めたり、授業のあとに懇談会を開いたりする。薬物乱用防止教育では、生徒に薬物に関する情報を与え、健全なライフスタイルを選択できる能力を育成する。キンダーガーテンから10年生まで必修である。交通安全教育では、交通事故にあわない歩行や自転車の乗り方、バス・電車・自動車などの車内での注意などを勉強する。

外国語は「英語以外の語学教育」LOTE: languages other than Englishと呼ばれ、中国語・ギリシア語・インドネシア語・イタリア語・日本語・韓国語の6ヶ国語のシラバスが準備されている。各学校は、学校区の民族の構成を考慮して、どの言語を学ばせるかを決定する。いくつかの言語を指定して、選択制にすることもある。小学校段階では、外国語は必修ではないが、教科として外国語を設定するほか、「人文社会と環境」の授業の一環として、外国語に親しむ時間を設けるなど、半数以上の小学校が外国語教育に取り組んでいる。また、科目表には掲載していないが、「第二言語としての英語」ESL: English as a second languageが公立学校の授業科目として設けられている。これらの教科は、オーストラリアは全人口の4分の1が海外出身であるという多文化社会であることを反映したものである。

NSW州の小学校の教科の構造を理解するうえで重要なのは、学習指導要領において学習する科目が定められているものの、時間割を科目名で埋めることはないということである。その事実について、3つの小学校で収集したデータを示していきたい。

(1) アルティモ小学校の場合

アルティモ小学校において、教科に関して、週に何時間を配当し、誰が指導者となるのかを尋ねるインタビューを行ったところ、各クラスによって多様性が大きいこと一概に答えられないとのことで、各クラスの時間割の提供を受けることができた。クラス担任制のため、1日の学習の配置は融通が効き、担任が時間割を自由に作成することができるが、一方、「図書館での図書館員の先生との学習」「中国語」「第二言語としての英語」の3つ授業は、他のクラスと利用を共有するため、「図書館利用タイムテーブル」などを作成し、リジッドに時間が指定されている。

アルティモ小学校で提供を受けた時間割は貴重な資料であるため、すべてを翻訳して、図表2から7として掲載することとした。また、各領域にどのくらいの授業時間が配当されているかを把握するために、週あたり約23時間45分の授業時間のうち、各領域が占める割合を算出した。その結果が図表8である。図表8から、次の4つの特徴を見て取ることができる⁴⁾。

第1に、日本では高学年に比べて低学年では授業が早く終わり、週あたりの授業時間が少なく設定されているのに対し、アルティモ小学校では学年による違いが見られないということである。

図表 2 K クラスの時間割 (2004年度第 4 学期)

時 間	月 曜 日	火 曜 日	水 曜 日	木 曜 日	金 曜 日
9:00	朝の集会 運動	運動	朝の集会 運動	運動 朝の仕事	全校集会
9:15	朝の仕事 ^{a)}	朝の仕事	朝の仕事	ライティング のグループ	
9:30	読み書きのグループ (メリッサ先生・2)	読み書きの グループ (メリッサ先生)	書き方 Handwriting		テクノロジー/ 焦点化された人 文学と環境 (T/T ウェンディ 先生・6)
9:45			中国語 (T/T)	数学のグループ	
10:00					
10:15			中国語 (T/T・3)	人文社会と環境 (RFF・5 と メリッサ先生)	
10:30					
10:45					
11:00					
11:20	ニュース				
ランチ					
12:30	数学プログラム CMIT・4 (中国バックグラウン ドの生徒は中国語)	数学/ コンピューター	ニュース 書き方 Modeled writing	スポーツ (K・2年生)	読み書き 発音/ライティ ング
1:00			図書館 (T/T)		
1:15					
1:35	休み時間				
2:00	読みの共有 Shared Reading 創造芸術	ニュース 科学/アート	音楽 (RFF と メリッサ先生)	歌の集会 (K・2年生)	構造化された 遊び
2:45－ 3:00				ニュース	

(注) *1 朝の仕事: morning routine

*2 メリッサ先生: 「第二言語としての英語」の先生

*3 T/T: 担任と中国語担当の教師がチームティーチングする

*4 CMIT: Count Me In Too という数学のプログラム

*5 RFF (Release to face to face): 担任は週に 2 時間、授業準備と校内事務のために授業を免除されるため、代替教員が配置される。

*6 ウェンディ先生: 図書館員

図表 3 K と 1 年生の混合クラスの時間割 (2004年度第 4 学期)

時 間	月 曜 日	火 曜 日	水 曜 日	木 曜 日	金 曜 日
9:00	集会／運動	運動	集会	コンピューター ニュース ライティング	集会
	スペリング つづりと発音 Sound Chart		運動		音声学 (K) スペリング(1 年)
		ライティング	ニュース		読みの練習 Reading Shared Guided
10:00	中国語	読みの練習 Reading Shared Guided	科学とテクノ ロジー	中国語	
10:30	アート (RFF)		数学プログラム CMIT	リーディング	
11:15		ランチ	ランチ	ニュース	ニュース
ランチ					
12:20	数学プログラム CMIT (中国バックグラウン ドの生徒は中国語)	数学 (K はメリッサ 先生, 1 年生は ダイ先生*1)	人文社と環境 ー私たちの知っ ている場所ー (RFF)	スポーツ	図書館 数学
1:35	休み時間				
2:00－ 3:00	ニュース 書き方 宿題	人文社会と環境 ー私たちの知って いる場所ー(RFF) ドラマ	ドラッグ教育 科学とテクノ ロジー	歌 ニュース	創造的実践的 アート CAPA*2 集団遊び St Play

(注) *1 ダイ先生: K の担任

*2 CAPA: Cretive and Practical Arts (創造的実践的アート)

図表 4 1・2 年混合クラスの時間割 (2004年度第 4 学期)

時 間	月 曜 日	火 曜 日	水 曜 日	木 曜 日	金 曜 日
9:00-9:30	運動 Health Hustle	コンピュータ室 (T/T コミノ 先生*1)	運動	運動	集会
9:30-10:00	スペリング	人文社会と環境 ー地域で働く人々ー	読みのグループ	数学 ー長さを測るー	9:45 図書館
10:00-10:30	コンピュータ室 科学	数学ー数			
10:30-11:00					
11:00-11:30	中国語	スペリング (ス ペリング契約と ワークシート)	宇宙 Space Strand (RFF)	中国語 (10人の 生徒が特別の中 国語授業)	中国語 数学ー数
11:30-12:20	ランチ				
12:20-12:50	スペリング契約 ／読みの グループ	人文社会と環境 ／読みの共有 & ライティング	数学ー数学プロ グラム CMIT	スポーツ (K-2年生)	スペリングの テスト
12:50-1:35			数のグループ (1・2年合同)		児童保護 Child Protection
1:35-2:00	休み時間				
2:00-2:30	RFF	書き方 (黒板／応用 applied)	創造的実践的 アート CAPA	歌 (K2年生)	遊びの時間
2:30-3:00	音楽 (メリッサ先生)	書き方		児童保護	

*1 コミノ先生：読み書き能力の補習プログラム Reading Recovery の先生 (RFF としても働く)

図表 5 3 年生の時間割 (2004年度第 4 学期)

時 間	月 曜 日	火 曜 日	水 曜 日	木 曜 日	金 曜 日
9:00	朝の仕事 英語 * スペリング * 文法 * ライティング	朝の仕事 英語 * スペリング * 文法 別室にてESL1	朝の仕事 英語 * スペリング * 文法 * 書き方	数学	集会
10:15		健康教育 PE と スポーツ		人文社会と環境 ／科学とテクノ ロジー 読みの共有も 含む	朝の仕事 英語 * スペリング テスト 別室にてESL1
10:45			テクノロジー 人文社会と環境 ESL1*1	英語－リーディ ンググループ (T/T コミノ先生) 別室にてESL1	英語－リーディ ンググループ (T/T コミノ先生) 別室にてESL1
11:20	ランチ				
12:20	英語／図書館で本を借りる				
12:40	人文社会と環境 ／科学とテクノ ロジー 読みの共有も 含む 別室にてESL2	数学 別室にてESL2	英語 * グループと個 人での活動 別室にてESL1 別室にて中国語 の特別授業	創造的実践的 アートCAPA 音楽－リコーダー	数学
1:35	休み時間				
2:00	英語－書き方	RFF 別室にて中国 語の特別授業	RFF 図書館 (図書館員)	心身の発育PD と健康 創造的実践的ア ートCAPA－ドラマ 別室にてESL2	創造的実践的 アートCAPA －アート
2:30	数学				

*1 ESL1 と 2：ニューカマーのクラス1と中級のクラス2の該当者がいる

図表 6 4 年生の時間割 (2004年度 4 学期)

時 間	月 曜 日	火 曜 日	水 曜 日	木 曜 日	金 曜 日
9:00	集会	読みのグループ	集会	読みの共有 ライティング ワークショップ ／文法	集会
9:10	スベリングのプ レテスト (宿題)		読みのグループ		スベリング/ テーブルテスト ／宿題の丸付け と回収
10:00	文法		書き方		図書館学習 (T/T) ～11:00
10:30	文章の種類 (説明文・物語)	中国語 (RFF)	昼食	昼食	
11:20				昼食	昼食
11:30	昼休み				
12:20	数学	数学	コンピューター の練習 (パワー ポイント・イン ターネットを使っ た調査・編集ソ フト・ワード書 類の作成)	数学	中国語の特別授 業 (中国バック グラウンド) ESL (未完成の課題, 数学ゲーム, 編 集リフト, アク ティビティ)
1:20	数学プログラム CMIT とゲーム	一人で読む		1:15 心身の発育と 保健体育	
1:35	休み時間				
2:00	ライティング の理解	人文社会と環境 (お祝い事)	人文社会と環境 (お祝い事)	アート (RFF)	創造的実践的 アート CAPA (劇場, 歌)

図表 7 5・6 年混合クラスの時間割 (2004年度第 4 学期)

時 間	月 曜 日	火 曜 日	水 曜 日	木 曜 日	金 曜 日
9:00	英語 * スペリング * 書き方	指導付き読みのグループ	数学	中国語 (RFF)	集会
10:00		コンピューター	書き方	数学	スポーツ
10:30	英語－事実文・物語分を書く ・事実レポート ・説明文 ・仮説 ・議論点	英語 一詩とフレーズ	指導付き読みのグループ	人文社会と環境	数学の丸付け スペリング テスト
10:45					
11:30	ランチ				
12:20	指導付き読みのグループ		アート	図書館	ドラマ 日記
1:35	休み時間				
2:00－3:00	数学 別室にて ESL	RFF 別室にて ESL	合唱 別室にて ESL	TTN*1 (ニュース)	英語 一詩とフレーズ 別室にて ESL

*1 新聞とテレビ報道のなかから教室で使える教材を配信する会社

図表 8 各領域への配当時間に関する分析

		K		K・1年		1・2年		3年生		4年生		5・6年生	
		分	%	分	%	分	%	分	%	分	%	分	%
英 語	読み、書き、スペル、発音含む	380	27.6	265	18.6	360	25.3	545 * 5	40.1	520	36.5	510	35.8
数 学	CMIT 含む	187.5 * 1	13.6	232.5 * 2	16.3	195	13.7	225	16.5	190	13.3	180	12.6
人文社会と環境		82.5	6.0	105	7.4	7.5 * 3	4.7	45	3.3	120	8.4	60	4.2
科学とテクノロジー		90	6.5	80	5.6	120 * 4	8.4	50	3.7	75	5.3	45	3.2
心身の発育と保健体育		102.5	7.5	135	9.5	232.5	16.3	95	7.0	75	5.3	30	2.1
	(音 楽)	102.5		105		165		65				30	
	(保健体育)			30		67.5		30					
創造芸術		155	11.3	150	10.5	150	10.5	145	10.7	120	8.4	210	14.7
	(音 楽)	105		30		90		55				60	
	(アート)	50		90		60		60				75	
	(ドラマ)			30				30				75	
外 国 語	中国語	65	4.7	60	4.2	120	8.4	60	4.4	60	4.2	60	4.2
そ の 他	集 会	60	4.4	60	4.2	45	3.2	75	5.5	30	2.1	60	4.2
	朝のルーティン	67.5	4.9					60	4.4				
	図書館	35	2.5	37.5	2.6	45	3.2	60	4.4	60	4.2	75	5.3
	ニュース	90	6.5	145	10.2							60	4.2
	遊 び	60	4.4	30	2.1	60	4.2						
	宿 題			20	1.4			15	1.1	35	2.5		
	ランチ延長			30	2.1					60	4.2		
	不明・その他			75	5.3	30	2.1			80 * 6	5.6	135	9.5

(注) * 1 うち中国バックグラウンドの生徒は－65

* 2 うち中国バックグラウンドの生徒は－75

* 3 「地域で働く人々」を含む

* 4 「宇宙」の学習とコンピューターを含む

* 5 中国語バックグラウンドは－55

* 6 数学ゲーム・発表・さまざまな活動を含む

() は内数

第2に、時間割は教科の名称ではなく、学習する内容が記載されることが多い。学習指導要領上では「英語」に相当しても、時間割に「英語」と示されることはなく、「読み」「書き」「スペリング」「発音」というように、実際に勉強する「英語の要素」が記載される。また「人文社会と環境」と「科学とテクノロジー」は同じ時間帯に併記される場合も多い。オーストラリアの学校ではコアカリキュラムの伝統を持つため、学習するテーマに応じて、複数の教科を統合し、もしくは複数の教科間の連携を綿密にして、授業を行っている様子が伺える。なお、このように、時間割の枠内にいくつかの学習の要素が併記されている場合は、単純に時間割の枠内の時間(分)を要素数で割ることで配当時間を算出している。

第3に、英語の学習に多くの時間が割かれていることである。入手できた時間割のうち、英語に配当する時間をもっとも少なかったのが「Kと1年生の混合クラス」で4時間25分(週時間数の18.6%)、もっとも多かったのが、「3年生」で9時間5分(週時間数の40.1%)であ

る。次に重視されているのは数学で、全体の1割強の時間が配当されている。以上から、リテラシー（読み書き）とニューメラシー（計算）の学習に重点を置いている様子が分かる。

第4に、学習指導要領で定められている領域以外の内容が登場することである。Kやステージ1（1年生と2年生）では、一日のはじめに軽い運動の時間が設けられている。また金曜日の午後には、「構造化された遊び」の時間があり、集団遊びやゲームをするものと思われる。そのほか、図書館で図書館員の先生から授業を受ける時間、ニュースについて取り上げる時間、宿題チェックをする時間などがある。また、日本人の目からみて特異なものは、空欄もしくは「その他」の欄の存在である。この時間を用いて、不足のある領域の学習を補ったり、週の学習もしくは宿題によって完成させた作品を発表したりしていると思われる。アルティモ小学校では、中国バックグラウンドをもつ生徒は、週に1時間の持ち出し授業に参加することになっており、中国バックグラウンドの生徒が不在の時間をどのようにコーディネートしているのかは興味のある点である。アルティモ小学校では数学のプログラムである「Count Me In Too」の時間を当てたり、「その他」の時間を当てたりしている。

(2) カールトン小学校とミドーバンク小学校の場合

図表9はカールトン小学校において、学習指導要領に定められている教科の領域について、指導者、授業形態の特徴、週当たりの配当時間、特記事項の4点について整理したものである。

「英語」「数学」「人文社会と環境」「科学とテクノロジー」の4領域については、クラス担任が担当し、クラスごとに授業が行われる。ただし3年生から6年生では「英語」と「数学」の授業において、生徒の能力に応じてクラスを再編するストリーミングを行う場合もある。「英語」の配当時間は、Kから2年生までは約6時間、3年から6年生は約4時間であるが、他の教科を通して横断的に教えるようにしているため、実際の学習時間はもう少し多いと考えられる。「数学」の配当時間は、Kから2年生までは約4時間、3年から6年生までは、約3.5時間となっている。

「心身の発育と保健体育」では、スポーツ専任の教師はおらず、Kから2年生までは、学級担任がゲームや大きな動きのアクティビティを行っている。3年から6年生はそれぞれの教師が得意なスポーツを教えている。そのため体育の時間を、各クラスとも金曜日9時から11時と統一し、他クラス合同の選択授業、つまり教師が自分の得意なスポーツを提供し、生徒が自分のやりたいスポーツを選択するという方法で実施している。提供されるスポーツは、テニス、バスケットボール、サッカー、水泳、クリケット、ボールゲーム、ソフトボールなどである。

「創造芸術」に関しては、Kから2年生はクラス担任が担当し、3年から6年生は、担任のうち創造芸術を教える能力をもつ教師が担当している。美術・音楽・ダンスの3つの種類の教師がおり、それぞれの内容を順番に、5週間から1学期に渡り、クラスごとに開講する。配当時間は週あたり約2時間であるが、各ステージのリーダーの考えにもとづき、「創造芸術」の内容と比重が変わる。オーストラリアにはコアカリキュラムの伝統があるため、あるテーマを中心にして、「人文社会と環境」と「創造芸術」を連携させて授業を行うこともある。

「外国語」に関しては、専任の教師がおり、生徒は自分のバックグラウンドにあわせて、中国語、アラビア語、インドネシア語、マウリ後、マサドニア語から選択して学習する。5つの言語以外のバックグラウンドをもつ生徒はインドネシア語を勉強する。カールトン小学校はマルチカルチャーな小学校であるため、外国語に熱心に取り組んでおり、アラビア語は1992年、中国語は1997年から開講され、ニュージーランドの原住民の言語であるマオリ語は2003年度に

図表 9 カールトン小学校の教科の内容

教 科	指 導 者	授 業 形 態	配当時間（週）	特 記 事 項
英 語 English	クラス担任	クラスごと。3年生から6年生では生徒の能力レベルごとにストーリーミングを行う場合もある。	K-2年生は6時間 3-6年生は4時間	他の教科を通して横断的に教えるように配慮している。
数 学 Mathematics	クラス担任		K-2年生は4時間 3-6年生は3.5時間	
人文社会と環境 HSIE	クラス担任	クラスごと。	2時間+ α	
科学とテクノロジー Science and Technology	クラス担任	クラスごと。	サイエンスとテクノロジーは1時間ずつで計2時間。	
心身の発育と保健 体育PDHPE	それぞれの教師が得意なスポーツを教える。スポーツ専任の教師はいない。	Kから2年生までは学級担任がゲームや大きな動きのアクティビティを行う。3年から6年生は他クラス合同の選択授業。生徒が自分のやりたいスポーツを選択する。	全クラスとも1週間に3日、体を動かすプログラムに参加する。Kから2年生は1週間のうちの決まった時間。3から6年生は金曜日9時から11時、他クラス合同の選択授業。	テニス・バスケットボール・サッカー・水泳・クリケット・ボールゲーム・ソフトボールなど
創造芸術 Creative Arts	Kから2年生までは担任、それ以上の学年は教える能力のある教師が担当。	クラスごと。それぞれの教師から美術・音楽・ダンスを順に5週間から1学期間学ぶ。	2時間。各ステージのリーダーの考えに基づき、クリエイティブアーツの内容と比重が変わる。	2003年度はステージ3のうち3つのクラスが、人文社会と環境の授業と関連づけて週に30分の音楽レッスンを受けた。
外国語 Language other than English	専任の教師	生徒のバックグラウンドにあわせて、中国語、アラビア語、インドネシア語、マウリ語、マサドニア語から選択する。5つの言語以外のバックグラウンドをもつ生徒はインドネシア語を勉強する。	2時間	地域的特性と保護者の意見に配慮して校長が実施を決める。

オーストラリアで初めて開講された。すべての生徒は週2時間、外国語について勉強し、さらに、その国の文化、歴史、習字、文学なども学ぶ。

ミドバンク小学校では、「英語」「数学」「人文社会と環境」はクラス担任が担当するが、「科学とテクノロジー」では、クラス担任と科学専任の先生とが共同で担当しており、実験は科学専任の先生が担当する。「心身の発育と保健体育」は、チェスの先生として来校している先生が担当したり、スポーツプログラムを提供する教育産業から派遣される指導員が担当したり、担任が授業準備と校内事務のために授業を免除される週2時間分の授業を代わりに担当する Release to face to face（以下、RFFと略記）の教員が担当するなどしている。「創造芸術」もRFFの教員が担当している。「第二言語としての英語」は、パートタイムの先生が来校し、

引き抜き授業の形態で、3つのレベルに生徒を分けてサバイバル英語を教えている。

リテラシーとニューメラシーは、教科横断的に1日2時間、勉強することになっている。また「数学」では、アルティモ小学校と同様に、「Count Me in Too」⁵⁾ という数学プログラムを取り入れ、生徒は適切なグループに所属して学習する。6年生の優秀な生徒が進学予定のハイスクールで数学を学ぶということもある。

カールトン小学校とミドバンク小学校のインタビューデータにおいて共通することは、小学校ではクラス担任制をとっていること、教科書がなく教材作りや授業進行において担任教師の自律性が高いこと、伝統的にコアカリキュラムの伝統を色濃く引き継いでいることから、各教科領域に割り当てている時間を明示することが困難であったことである。

カールトン小学校とミドバンク小学校の教科の構造上の大きな違いは、カールトン小学校では外国語の授業が開講されているのに対し、ミドバンク小学校では開講されていないことである。外国語は必修科目ではないため、地域の特徴と保護者の意見に配慮して、校長が実施を決定する。ミドバンク小学校は、比較的、移民の子どもの割合が低いこと、小規模学校のため、外国語のレパトリーを取り揃えるだけの人的資源が得られにくいことなどが影響していると思われる。

カールトン小学校の指導者配置の特徴は、カールトン小学校が1学年3クラスから5クラスを擁する大規模校であることから、「心身の発育と保健体育」と「創造芸術」の領域において、学年を担当する教師の得意分野を生かすかたちでメニューをそろえ、生徒に選択させる、もしくは順番に履修させるという工夫を行っていることである。一方、ミドバンク小学校は1学年1クラスの小規模校のため、専任教員の人的資源が少なく、RFFの教員にこれらの教科を任せ、あるいは「心身の発育と保健体育」にスポーツ教育産業から派遣される指導員を導入するなどしている。

3. 国家カリキュラムと教師の自律性

小学校ではクラス担任制をとっていること、教科書がなく教材作りや授業進行において担任教師の自律性が高いこと、伝統的にコアカリキュラムの伝統を色濃く引き継いでおり、各領域を横断して、または連携させて学習活動を行っていることから、各教科領域に割り当てている時間はクラスによってまちまちである。一方で、オーストラリアは国家カリキュラムを制定し、各学年で学ぶべき領域と内容を事細かに定めている。

教師の自律性を重んじ、コアカリキュラムを中心として進行する授業において、いかに国家カリキュラムを網羅し、スタンダードを維持することができているのだろうか。

ミドバンク小学校の校長によると、「以前は教科ごとに教授時間 teaching time が定められていたこともあるが、今は統合カリキュラムになっている。生徒は足し算とか引き算を勉強しないと数学を勉強したと思わないため、生徒に、今日は数学で何をやった、と聞いても、今日は数学なかった、と答えるかもしれないが、学習活動のなかで数学的な概念を用いた活動、例えば Count Me In Too など数学を使う遊び、数学に用いられる言語 language of math、などを勉強しているはずである」と語っている。カールトン小学校の校長は、「各科目に何時間をあてるかは決められておらず、学校と教師に任されている。教師によって各科目に当てる時間が変わる。科学に興味ある教師は3時間、興味がない教師はゼロということもある。小学校では一人の教師がすべての教科を教えるため、英語をやってちょっと美術をやって英語に戻るなど、柔軟性がある。教育省から教える内容の指示はあっても、興味深いことにアセスメント

はなされない」と語っている。

しかし、調査を進めるなかで、国家カリキュラムのアセスメントは、通知表と州テストによってなされていることが分かってきた。以下に、この2つについて、現在、収集できた情報をまとめたい。

(1) 州テストによるアセスメント

小学生が受験する州テストには4つの種類があり、カリキュラムのアセスメントとして重要なのは、3年生と5年生が受験する、「基礎能力テスト Basic Skills Test」と「小学生文章力テスト Primary Writing Assessment」の2つである⁶⁾。基礎能力テストは毎年8月に実施され、数学は「計算」「測定」「図形」を含んだ選択問題で出題され、言語能力は「読解」「言葉の使用」「正しい英文の書き方と綴り」を含んだ選択問題で出題される。3年生は100分、5年生は120分のテストを受ける。「小学生文章力テスト」は、政府のLiteracy and Numeracy Plan（読み書き計算能力推進計画）の一貫として実施され、通常7月にテストがあり、説明文と物語文を書き、文章の構成だけでなく、文法、綴り、正しい英語の書き方を採点するものである⁷⁾。

テスト結果は学校に通知され、保護者にも郵送される。図表10に示したのは、保護者に郵送される成績シートの一部である。NSW州全体レベルに対して、子どもの言語・数量判断能力の相対的レベルが示されるほか、個々の子どもが、書き、計算分野で発揮した技能に関して詳細に説明される。

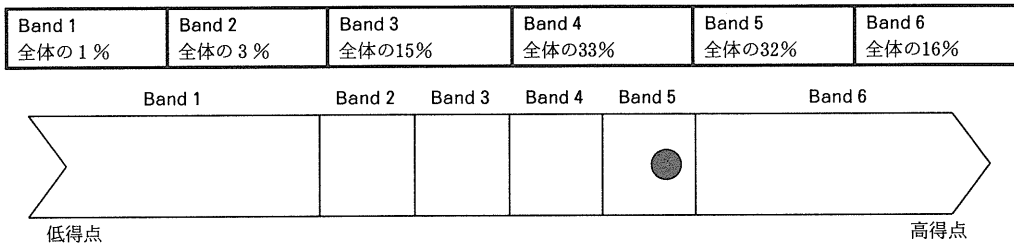
学校には、個々の生徒の成績だけでなく、アボリジニ（オーストラリアの先住民）の子どもグループ、英語を第二言語とする移民の子どもグループなど、学校に在籍する子どものカテゴリーごとの達成度、州全体における学校の達成レベルなどのデータも伝達される。学区 district の教育長が来校し、試験の結果を参照して、学校が基準に達しているかを判断する。生徒の達成を客観的に把握するだけでなく、特別なケアを必要とする生徒を特定したり、教師が生徒のレベルとニーズに合わせて教授方法や教授内容を見直す資料としたり、学校が学習指導要領の求める達成を果たしているかを査定したりする役割も果たしている。なお、試験結果の守秘に関しては、NSW州の法律のもとで保護されており、特定個人の試験結果を公表したり、学校ごとの結果を公表して学校のランク付けをしたりすることは禁じられている。

(2) 通知表（Student Progress Report）によるアセスメント

カリキュラムのアセスメントで重要なもののもうひとつは、セメスターごとに手渡される通知表である⁸⁾。ここでも国家カリキュラムと教師の自律性がバランスよく共存している様子を見て取ることができる。通知表に含めるべき項目のアウトラインは学習委員会が定める学習指導要領（シラバス）において到達目標として示されているものの、実際には、何をどう評価するかは教師の裁量に委ねられているのである。図表11と12は、小学校3年生と6年生の生徒が、学年末に実際に受け取った通知表の内容一覧である⁹⁾。貴重な資料であるため、「教師のコメント」以外のすべての部分を訳出した。通知表は4つの部分から構成される。教科ごとの達成度を評価する部分、社会性の発達について評価する部分、学期中に取組んだ教科外活動のリスト、教師からのコメントの4つである。教科ごとの達成度を評価する部分では、各教科で学期中に取組んだ課題について、どの程度目標が達成できたかを絶対評価で示している。例えば、英語は「話す・聞く」「読む」「書く」の3つの項目からなり、「話す・聞く」では、「調べたト

図表10 保護者に郵送される州テストの成績フォーマット（一部）

黒点 ● は、この児童の評価結果を示します。



図表11 小学校3年生の通知表の内容

【英語】	WT	A	WB
① 話すこと／聞くこと			
・調べた事柄について、継続的な情報レポートを作成することができる			
・特定の目的と聞き手に応じて、つねに適切な話し言葉を選択している			
② 読むこと			
・より複雑なテキストを読むことができる（伝記、詩、説明文など）			
・物語文、回想文、詩、説明文、描写文を区別し、その特徴を説明できる			
・さまざまな文章から理解したものを表明することができる			
③ 書くこと			
・幅広いタイプの文章を書くことができる			
・清書には校正と編集を行っていることが明らかである			
・自分の書いた文章のなかにスペリングの間違いかもしれないものを特定することができる			
・NSW州の標準スタイルにのっとり、いつも正しい形・大きさ・傾斜をもって文字が書ける			
・形容詞と副詞の区別をし、それらがどのようにして名詞や動詞にさらに多くの情報を提供するかを理解できる			
【数学】			
① 空間			
・3次元の図形の立体図、断面図などについて追求し、描写することができる			
・規則的な形と不規則的な形を線で書くことができる			
・あるパターンを完成させ、左右対称の形を描くことができる			
② 測定			
・スクエアメーター（1 m ² を測る道具：筆者注）を使ってさまざまな場所を測ることができる			
・メートルよりも小さい単位が必要であることを認識できる			
・おおよそのリットルを予測し、計測できる			
・温度計を使って温度を測ることができる			
・デジタルとアナログ時計を使って分単位で、時間を理解し記録できる			
③ 数			
・かけ算アルゴリズムの垂直方向を読み、解釈できる			
・100個までのものを、あまりを作ったり、作らなかったりして、平等に分けられる			
・100個のものをを使ってグループに分けて、それぞれに名前をつけられる			
・いくつかアイテムの合計金額を計算して、正しいおつりをあげることができる			

WT：求められる水準に近づきつつある，A：求められる水準に到達している，WB：求められる水準以上に達している（3段階）

【人文社会と環境】	1	2
・人々や社会、環境についての学習に積極的に参加する態度を示している		
・日々変化する世界のなかで、生涯に渡って学習することの重要性を理解している		
【科学】		
・実験の結果は、さらなる問いを導きうることを理解している		
・仮説をテストし、チェックする方法を計画することができる		
【コンピューター】		
・コンピューター上で基本的なデスクトップパブリッシングの能力を示すことができる		
【創造芸術（芸術・音楽・ダンス・ドラマ）】		
・芸術作品について自分自身の観察や意見を、自信をもって表明することができる		
・アイデアを考え出すために経験と想像力を統合できる		
・即興詩を創造し構成することができる		
・ドラマで、その場に適切な役を選ぶことができる		
・音階のあるパーカッションにおいて、単純なメロディーを作曲し演奏することができる		
【心身の発育／健康と体育】		
・さまざまな動きの能力を示すことができる		
・教わった一連の動きや能力を模倣することができる		
【日本語】		
・日本語のさまざまな語彙を識別することができる		
・日本語で簡単な文を作ることができる		

1. 発展途中 developing, 2. 十分 competent, (2段階)

【心身の発育】	1	2	3
・他者の要求・権利・感情・努力を尊重する			
・クラスメイトや大人と良好な関係をもつ			
・グループ活動に協力しながら参加する			
・適切な時間内に仕事をやり遂げる			
・宿題に対して適切な態度をもつ			
・きちんとした読みやすい文章を作る			

1 ときどきできる, 2 だいたいできる, 3 常にできる (3段階)

ピックについて適切に情報を伝えることができる」「目的や聞き手に応じた話し方ができる」など、その学期に取組んだ学習内容にあわせて設定されているので、自分がその学期を通して何ができるようになり、何が不十分であるのかを具体的に把握できるものとなっている。小学校3年生の英語と数学は、「求められる水準に近づきつつある」「求められる水準に到達している」「求められる水準以上に達している」の3段階、その他の科目は「発展途中」「十分」の2段階で評価され、5年生では、「困難を覚えている」「発達しつつある」「自信をもって取り組んでいる」「学んだ以上に才能を発揮している」の4段階で、中間評価も含めて7段階で評価される。

2番目の社会性の発達に対する評価では、「他者の要求・権利・感情・努力を尊重する」「クラスメイトや大人と良好な関係をもつ」「グループ活動に協力しながら参加する」「適切な時間内に仕事をやり遂げる」などの社会性の発達状況を評価する項目について、小学校3年生では、

図表12 小学校5年生の通知表の内容

【英語】	1	2	3	4
①話すこと／聞くこと				
・自信をもってディベートや準備されたスピーチに参加できる				
・集中して聞き、注意深くまた完全に先生の指示に従うことができる				
・ディスカッションにおいて成熟した反応を示すことができる				
②読むこと				
・静かに個人読書が続けることができる				
・情報をざっと読み、重要な箇所を探すことができる				
・さまざまな文章のタイプを読み、理解することができる				
・登場人物の特徴への理解を表明することができる				
③書くこと				
・きれいで読みやすい自分らしい書き方ができる				
・議論や論評を書くことを通して、意見を伝えることができる				
・正しい時制、句読点、スペリング、文法を用いて完全な作品へと編集することができる				
・構造化された文章をうまく使うことができる				
④ コンピューター				
・ヘッダーを使ってテキストを作成することができる				
・タブを使って文章を作ることができる				
・グラフィックスを含んだテキストを作成することができる				
・テクノロジーを使ってタイトルページをデザインできる				
⑤ 科学とテクノロジー				
・生鮮食品と加工食品を見分けることができる				
・生産者から消費者への加工過程を含んだステップを識別することができる				
・太陽系についてさまざまな観点から調査し、レポートできる				
【数学】				
①数				
・999999までの数を読み、書き、並べることができる				
・999999までのたし算とひき算ができる				
・位どりのある4桁の数字のひき算ができる				
・12×12までのかけ算を自信をもって暗記することができる				
・3桁か3桁以上の数字を、1桁以上の数字で割ることができる				
・3桁か3桁以上の数字を、10で割ることができる				
・パーセント、小数、分数としての数字を書くことができる				
・お金を含んだ問題を解くことができる				
・＋、－、×、÷の計算を使って問題を解くことができる				
②空間				
・線のタイプを識別し、認識することができる				
・簡単な立体を描くことができる				
・角度を作ったり測ったりできる				
・線グラフを作ったり解釈したりできる				
③測定				
・長さや幅をつかって面積を測ることができる				
・キロメートルの長さを記録できる				
・午前と午後を使った表示を24時間表示に直し、またその逆もできる				
・コンテナに100ミリリットルに近似する容量を入れることができる				
【外国語：日本語】				
・46コのひらがな（日本語のアルファベット）を識別できる				
・さまざまなトピックからの語彙を理解できる				

生涯学習社会における学校の役割と学校建築の持続的再生に関する国際比較研究Ⅲ

【人文社会と環境】	1	2	3	4
・区役所の仕事について理解できる				
・他の文化を尊重し、理解することができる				
・与えられたトピックについて情報を伝達することができる				
【健康・心身の発育・体育】				
・体とそれへ影響を与えるものについて自覚できる				
・健康的な食生活に貢献する食べ物を認識することができる				
・さまざまなスポーツをやり遂げる適切なスキルをもっている				
【音楽とダンス】				
・さまざまなダンスを踊ることができる				
・音程のあるパーカッションでフレーズを反響させることができる				
・音程のあるパーカッションで与えられたメロディーを奏でることができる				
【芸術と工作】				
・芸術作品を作るときにオリジナルなアイデアをもつことができる				
・注意深くデザインを作り上げることができる				
・さまざまなイメージを直接絵画に表せる				

1. 困難を覚えている 2. 発達しつつある 3. 自信をもって取組んでいる 4. 学んだ以上に才能を発揮している（中間評価を含む7段階評価）

今年参加した活動

バンド	地域の運動競技	
コーラス	地域のクロスカントリー	
小学校スポーツ協会提供の冬のスポーツ	地域の水泳	
小学校スポーツ協会提供の夏のスポーツ	ノックアウトチーム	
地区の運動競技	ドラマ	
地区のクロスカントリー	ダンス	
地区の水泳	トーナメントオブマインド	
チェス	学校の生産活動	
ディベート	生徒会活動SRC	
弁論	その他	

【社会的発達】	1	2	3
・自主的に働く			
・ポジティブな自尊心を示す			
・活動に集中することができる			
・学校の規則を遵守する			
・決められた仕事をやり遂げる			
・グループ活動で協力する			
・イニシアティブを取る			
・他者への思いやりや関心を示す			
・宿題をしっかりとやる			

1. しない 2. だいたいする 3. 常にする（中間評価を含む5段階評価）

「ときどきできる」「だいたいできる」「常にできる」の3段階で、5年生では、「しない」「だいたいする」「常にする」の、中間評価を含んで、5段階で評価される。小学校では、教科の学習や教科外の活動を通して子どもたちの社会性を育てることも重要視していることが分かる。

そして3番目に、学期中に取組んだ教科外活動が列挙される「Activities that I have been involved in this year」の欄がある場合がある。この欄の存在から、教科以外の活動が単なる子どもたちの娯楽ではなく、子どもの成長や発達を促す教育的効果をもつ活動として位置づけられていることが分かる。

4. おわりに

オーストラリアの学校教育が多大な影響を受けているイギリスの学校教育では、近年、大きな変化があった。教育の効率性を高めるために競争原理を導入し、学習するスタンダードを決める国家カリキュラムを作成し、すべての生徒が受験する国家レベルの到達度試験を実施している。さらに、到達度試験の結果は、リーグテーブルと称される一覧表により学校ごとの成績順位が公表され、保護者の学校選択や、国家からの教育予算の配分にも影響を与えている。そのなかで、伝統的に教師に与えられていた自律性は大きく揺らいでいる。すなわち国家カリキュラムによって授業内容が規定され、試験に出る分野を中心に勉強し、生徒が到達度試験で高い成績を収められるような授業方法に変わっているというのである。

オーストラリアでは、詳細で網羅的な国家カリキュラムが制定されているが、イギリスとの大きな違いは、オーストラリアでは「何をどのように教え、どのように評価するか」に関して教師の自律性が最大限尊重されていること、到達度試験は生徒の達成のアセスメントとして利用されるが、決して生徒間を比較したり、学校間を比較したりするものではないということである。また、イギリスは優秀な成績をおさめた学校に教育予算を重点的に配分して優遇するのに対し、オーストラリアでは移民の多く通う学校で、優良な成績を収めることに困難を感じる学校に対し、重点的に予算を配分して、教育機会の平等に貢献しようとしている。

断言するためにはさらなる調査と研究が必要であるが、オーストラリアの学校教育においては、国家カリキュラムのスタンダードを維持することと、教師の自律性を尊重することが、絶妙のバランスをもって実現されているように感じる。

【注】

- 1) 本論文で紹介するデータは、村上心（椋山女学園大学生生活科学部助教授）が研究代表者を務める「生涯学習社会における学校の役割と学校建築の持続的再生に関する国際比較研究会」が共同で収集したものである。研究会のメンバーは、村上心、山田真紀、川野紀江（椋山女学園大学生生活科学部助手）の3名である。教育分野の研究報告については山田真紀が、建築分野の研究報告については、村上心と川野紀江が執筆するとの役割分担をしている。また、本研究会は、2003年度椋山女学園大学学園研究費助成金 A（研究代表者：村上心）の受給を受けて結成されたものである。本研究の推進のために必要な資金を与えてくれた本学園に対し、深く謝意を表したい。
- 2) 山田真紀「生涯学習社会における学校の役割と学校建築の持続的再生に関する国際比較調査Ⅱ－オーストラリア NSW 州の学校教育と調査対象校の概要について－」『椋山女学園

大学研究論集（自然科学篇）』第36号，2005年を参照のこと。

- 3) オーストラリア連邦には6つの州と2つの連邦直轄区があり，それぞれにおいて教育制度に多少の違いが見られる。詳細は，山田真紀前掲論文を参照のこと。
- 4) アルティモ小学校は，教師の配置人数と学年ごとのクラス数が一致しないことから，一部のクラスを2学年合同にするというユニークなクラス編成を行っている。
- 5) CMIT は計算能力や問題解決能力を高めるさまざまなアクティビティから成る。教師はCMIT の研修に参加し，実践上の困難に関しては，コーディネーターが相談に乗る。
- 6) 基礎能力テスト Basic Skills Test, 小学生文章力テスト Primary Writing Assessment, コンピューター能力査定テスト Computer Skills Assessment, オポチュニティクラス選考テスト, Opportunity Class Placement, 選抜制ハイスクールテスト Selective high schools Year 7 placement の4つである。詳しくは山田真紀前掲論文を参照のこと。
- 7) このふたつの試験については，NSW 州のホームページ上で，保護者に向けた説明書（日本語）を閲覧することができる。

https://www.det.nsw.edu.au/media/downloads/languagesupport/basic_skills/skill_japanese.pdf（基礎能力テスト）

https://www.det.nsw.edu.au/media/downloads/languagesupport/primary_writing/pwa_japanese.pdf（小学生文章力テスト）

- 8) NSW 州の小学校は4学期制であり，1・2学期をあわせて第1セメスター，3・4学期をあわせて第2セメスターと呼ぶ。
- 9) 本稿で紹介した通知表はノースシドニーにある小学校に子どもを通わせる保護者から提供を受けたものである。我々が研究の対象としている3つの小学校において発行されたものではない。

《謝辞》

シドニーで調査を進めるにあたり，アルティモ小学校，カールトン小学校，ミドバンク小学校の教職員のみなさまには，学校訪問，インタビュー，日本帰国後のフォローアップインタビューなどに応じていただきました。この場を借りて心よりお礼申し上げます。また，シドニー日本人クラブのみなさん，特に大塚藤子氏と大塚るる氏には，資料提供，学校訪問のアレンジなど大変お世話になりました。ここに記して心からの感謝を申し上げます。

《参考文献》

- 石附実・笹森健『オーストラリア・ニュージーランドの教育』東信堂，2001年。
- L, フォスター（吉井弘訳）『オーストラリアの教育』草書房，1991年。
- 山田真紀「オーストラリアの小学校における特別活動①ーオーストラリアの教育制度と教育政策ー」『道徳と特別活動』，文溪堂，平成15年4月号，58－61頁。
- 山田真紀「オーストラリアの小学校における特別活動②ー小学校の日常生活についてー」『道徳と特別活動』，文溪堂，平成15年5月号，46－49頁。
- 山田真紀「オーストラリアの小学校における特別活動③ーシドニーの小学校の教科外活動ー」『道徳と特別活動』，文溪堂，平成15年6月号，46－49頁。

《参考資料》

オーストラリア連邦の「教育・科学・訓練省」HP

<http://www.dest.gov.au/>

NSW 州の「学習委員会」HP

<http://www.boardofstudies.nsw.edu.au/>

NSW 州の「教育・訓練省」HP

<http://www.det.nsw.edu.au/index.htm>

<http://www.det.nsw.edu.au/languagesupport/language/japanese.htm>（日本語）

カールトン小学校のHP

<http://www.carlton-p.schools.nsw.edu.au/>

ミドーバンク小学校のHP

<http://www.meadowbank-p.schools.nsw.edu.au/1>